

岐阜大学の連合大学院への入学おめでとうございます。本日ここに入学してこられた皆さんに対して連合大学院のすべての教職員を代表して心から歓迎の意を表します。入学の喜びと勉学への意欲に燃える皆さんを迎えることは岐阜大学をはじめとする全ての構成大学の教職員にとって大きな喜びであります。御家族の方や恩師の方々にも心よりお祝いを申し上げます。

岐阜大学には本学を基幹校とする3つの連合大学院があります。本日は静岡大学、岐阜大学で構成される連合農学研究科の14名の方、帯広畜産大学、岩手大学、東京農工大学、岐阜大学の4つの大学で構成される連合獣医学研究科の21名の方をお迎え致します。従って、本日静岡大学の学長、理事、研究科長および東京農工大学の理事に列席を賜っています。連合創薬医療情報研究科は1週間前に入学式を終えています。

皆さんの本連合大学院入学志望の動機には幾つかのものがあつたと思います。いずれにせよ、私共はこの連合大学院で学ぶことを志し、入学された皆さんとの出会いを大切に、皆さんの勉学、研究の為に出来る限りの努力を致します。私共は皆さんに本連合大学院において高い評価を受ける研究を行なって頂き、国際的に充分通用する高度専門職業人や研究者になられることを願っております。本連合大学院には多数の海外からの留学生が在籍されています。今まで本大学院に留学された多くの方々が既に母国や外国でいろいろな立場で活躍をしておられます。留学生の方々は慣れない環境で大変と思いますが、母国を離れ、勉学・研究することによって、いろいろな人々と知り合うことが出来ます。そうした人脈は将来必ず役に立つと信じています。

さて、近年の科学技術の進歩と、学術研究の専門化、高度化には著しいものがあります。皆さんが学び、研究しようとする農学や獣医学は幅の広い学間で社会生活に根源的なところで関わっており、人類のこれからの発展に大切なものばかりです。森林の二酸化炭素吸収の役割や自然界での水環境の関わりなどは地球環境のサステナビリティの保全の意味で重要であり、動物の疾病メカニズムの研究は人獣共通感染症に関わる現代医療の課題でもあります。最近の新聞などは山野に生息するマダニが媒介する新しいウイルス感染症「重症熱性血小板減少症候群」の死亡例や中国で感染が相次いでいる鳥インフルエンザウイルス「H7N9型」による死亡例を報告しています。感染症は性質が変わりやすく不適切な対応は社会問題となります。食の生産とその安全性は人類が抱える食糧問題の解決になくてはならない事柄です。現在、遺伝子組み換え食品も

普及しつつあり、米国、カナダは他の国々に先駆けて大規模に栽培し、輸出しています。米国は遺伝子組み換え大豆、トウモロコシを主に輸出し、カナダは菜種、綿花、ジャガイモ、カボチャなどを輸出しています。このような食品の開発と普及については多数の国々で議論が展開されています。皆さんにもその様な議論に加わって頂きたいと思います。

さて、皆さんは本大学院では種々の研究テーマによって、研究活動を行います。研究に直接関わる事柄だけでなく、幅広い知識と技術をこの期間に身につけて下さい。そうしたことが将来必ず役に立つはずでです。生物学を学ぶ人はだれでも知っていることではありますが、我々の体細胞には細胞周期があり、それはG1期、S期、G2期、M期であります。細胞周期の回転が速い臓器もありますし、殆どの細胞が細胞回転の停止期(G0)に入っている臓器もあります。細胞回転のS期ではDNAが合成され、M期の細胞分裂に備えます。人生において、S期細胞がDNAを合成し、蓄える様にエネルギーや情報の貯蓄が必要であります。大学院の時代は挑戦をすると同時にさらに知識の吸収に努め、判断力や精神力を貯蓄し、鍛え上げる時期ではないでしょうか？

ところで、プエルトリコのビエケス島周囲に夜になると幾千もの光で輝く海があります。オワンクラゲの蛍光によるものです。このクラゲの緑色蛍光蛋白質GFPの単離に成功したのは下村博士であり、2008年にノーベル化学賞受賞を得ました。この研究は下村博士のみならず、妻、息子、娘の一家による何百万ものクラゲ捕獲での基礎研究によります。2000年前、古代ローマの博物学者であるプリニウスは、既にある種のクラゲに見られる発光の使い道について述べています。クラゲを何匹か捕らえ、杖にこすりつけて光らせ、夜の散歩道を明るく照らすというものです。いずれにせよ、GFPはその後生命科学の進展に大きく寄与しました。しかし、生物の蛍光物質に関してはホタルの蛍光物質であるルシフェラーゼの方が早く発見されています。ホタルはこの物質をパートナー探しに使うだけではなく、天敵からの防御メカニズムとして使用しているといわれます。GFPやルシフェラーゼの様な光遺伝子による研究は多臓器における再生医療、免疫系、神経科学、食品科学など多数の領域で必須とされています。これらの研究の開始や発展には、研究者の大学院時代の多くの経験が基礎になっていると思います。

私共は縁あって、皆さんを本連合大学院に迎えるからには、できるだけ良い研究環境をつくるべく努力致します。皆さんもこの大学院時代を今後の飛躍に

繋がる充実したものとするべく、頑張っ頂きたいと思ひます。
本日は誠におめでとうござひます。

平成25年4月12日

岐阜大学学長

森 秀樹